# 朝日俳壇歌壇

## 大串章選

春うらら嬉しくて加齢ライス食ふ　（山梨県市川三郷町）笠井彰
九条は守り抜くべし春疾風　（敦賀市）中井一雄
紅白の梅満開の空き家かな　（鎌倉市）佐々木眞
白寿まで百寿まではと日向ぼこ　（長野市）縣展子
大空に風の道あり鳥雲に　（柏市）藤嶋務
佐保姫を見て白鳥の帰国かな　（鹿嶋市）津田正義
鞦韆や宙ぶらりんの十五年　（仙台市）松岡三男
受験生一人の乗車無人駅　（横浜市）小林俊英
居酒屋の一期一会や春隣　（宮津市）高橋智子
我が庭を通い路とせり恋の猫　（東かがわ市）丸山靖子

【評】第1句。加齢ライスとは善くぞ言ったり。好きなカレーライスを食べて長生きして下さい。第2句。戦争放棄を宣言する日本国憲法第九条、守り抜かねばならぬ。第3句。花盛りの紅梅・白梅、この家に住んでいた人はどうしたのだろう。

## 高山れおな選

ヴィヴァルディの四季総立ちの土筆んぼ　（横浜市）大井みるく
春近しヴィオラの甘きピチカート　（相模原市）染谷幸一
山幾重岬幾重や春の雲　（沼津市）石川義倫
佐保姫のあくびに野山青みけり　（伊丹市）保理江順子
ジョウビタキ首をかしげて吾を見る　（さいたま市）丸橋酉重
雨の夜に家族となりし捨子猫　（茅ケ崎市）浜本文子
孫ピアス我補聴器の春休み　（四国中央市）石川明憲
さびしさも生きているうちヒヤシンス　（西宮市）東房須美子
☆全共闘の諸君も老いぬ亀と鳴く　（東京都世田谷区）野上卓
中道のあやふやな道春の雪　（岐阜県垂井町）北嶋克司

【評】大井さん。「四季」のうちの第一協奏曲「春」、「春」のうちのアレグロの第一楽章の気分か。染谷さん。最近ではサン＝サーンスの交響曲第三番でこれを聞いた。石川さん。直接には伊豆の情景か。とまれ、日本全体の地形もこの通り。

## 小林貴子選

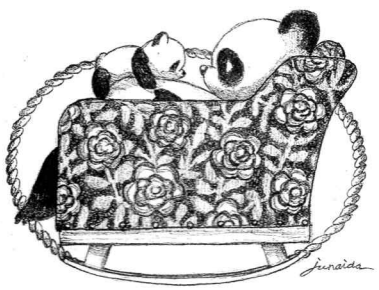
我らかつて両生類や春の沼　（松江市）三方元
少し腰曲げ女形濃紅梅　（三鷹市）中田祐子
反省は身体に悪し春の塵　（富士市）村松敦視
盛衰史海苔にもありて江戸の海　（柏市）正野貴子
鳥の巣や放蕩息子待つかたち　（町田市）中野こうじ
角笛を吹けば駆け寄る孕鹿　（尼崎市）小石絹子
春節や百節龍の舞い高し　（横浜市）田名邉賢治
チューリップ初心者という伸びざかり　（小山市）倉井敦子
万作の乏しかるこそゆかしけれ　（富士宮市）高橋政光
待はいかがなものか球春来　（さいたま市）関根道豊

【評】一句目、我々も進化の過程で沼に棲んでいたのか、春の沼に来ると何かを思い出しそう。二句目、どういう姿勢が女形らしいかというと「少し腰曲げ」だと納得。三句目、体に悪いならやめておこう。四句目、海苔の歴史に興味を引かれる。

## 長谷川櫂選

☆全共闘の諸君も老いぬ亀と鳴く　（東京都世田谷区）野上卓
汀子忌の空去り難く鶴は舞ふ　（三木市）内田幸子
春の海いまだにのたりのたりかな　（福岡市）釋蜩硯
春寒し言葉の綺羅を求むれば　（苫小牧市）齊藤まさし
沈黙といふ白神の春の声　（秋田市）松井憲一
日々眺めゐて白鳥の遠さかな　（下野市）久保田清
動の馬また静の牛牧開く　（富士市）蒲公英
今年何故あなたのいない春一番　（鎌ケ谷市）都丸浩美
紅梅や咲ききりてなほ枝にあり　（川崎市）川島隆則
何事もおこる筈なく長閑なり　（倉吉市）尾崎槙雄

【評】一席。戦後のベビーブーム世代もそろそろ八十歳。亀は何と鳴いているか。二席。〈空といふ自由鶴舞ひやまざるは〉汀子。二月二十七日。三席。〈春の海終日のたりのたりかな〉蕪村。永遠の春の海。十句目。そうあって欲しいのに。



〈日曜日のブローチ　46〉　junaida

## 短歌時評　「歌集の民主化」の先に

山崎聡子

2月、東京・下北沢のギャラリーで開かれたブックマルシェに立ち寄った。ここでは本や冊子を扱う販売会を毎月開催。今回は「短歌を詠んだら歌集を編もう」と題し、同名のワークショップの卒業生が制作したカラフルな歌集が並んだ。

書店員らのグループが企画し、歌書の出版に携わる編集者・笥井菜央がナビゲーターを務めるワークショップでは、参加者たちが講師のアドバイスを受けながらミニ歌集を制作。講師には、穂村弘、枡野浩一、小島なおなどの歌人のほか、ブックデザイナー、編集者、書店員などの顔ぶれが並ぶ。企画者の一人が「本づくりの民主化」という言葉を引用していたが、文学フリマなどのイベントも盛況ないま、歌集を制作、販売するハードルは低くなっている。一方、書いた短歌を「歌集」にまとめるまでには、大きな跳躍が必要となる。跳躍のためのヒントを開かれた形で提示しようというのが、ワークショップの趣旨の一つだろう。

同日には歌集『卵降る』を出版した小島と担当編集者である笥井のトークが行われ、歌集の「核」となる方向性をどう定めるか、デザインや書籍流通のしくみに至るまでの実際が参加者からの質問に答える形で開示された。そのなかで短歌に「編集」的視点が入りにくいことが言及されたが、これまで短歌の内側に欠けがちだったのは、「誰に何を、どんな形で届けるか」という視点だろう。自らの内的動機を煮詰めたうえで読者に何を投げ出すか。ワークショップの参加者が問いかけられたことは、そのまま短歌の創作に携わる全員に向けられている。（歌人）

## 風信

第43回兜太現代俳句新人賞　現代俳句協会主催。埼玉県の内野義悠さん(38)の「雨滴の窓」（50句）と、神奈川県の高田祥聖さん(39)の「ゐしころ」（50句）に決まった。

夏井いつき著「夏井いつきの俳句添削事典」　初心者のありがちなミスを指摘し、解決策を示す。添削例608句を収録。作句・推敲チャート付き。（朝日出版社・2090円）

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます（週に2作品まで）。QRコードから。